

令和6年度復職支援研修  
**講義・演習6月コース実施報告**

令和6年6月20日(木)～6月21日(金)

## 1. 目的

就業を希望する者に対し、最近における看護知識・技術を修得させ、未就業看護職に再就職を促すとともに就業の継続支援を目的とする。

また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、新たな看護業務の発生や看護職員の休業等で緊急の要請があった場合、協力可能な看護職が不安なく業務に従事できるようにする。

## 2. 開催日

講義・演習コース1：令和6年6月20日（木）～6月21日（金）

## 3. 開催場所

宮崎県看護等研修センター

## 4. プログラム

(講師敬称略)

回数	午前	午後
1日目	開講式 9:20 看護の動向 (9:30～10:30) 看護に関係する社会環境の変化や最近の看護に関する動き等を学ぶ 講師：宮崎県ナースセンター長 荒川貴代美 復職支援講座 (10:40～11:30) ・職場の選び方・履歴書の書き方・職務経歴書の書き方・面接の受け方 ナースセンター 就業相談員 小谷やよい 自己紹介・意見交換 (11:30～12:00) 受講生間の交流を深め、再就業への意欲をさらに高める。	感染管理 (13:00～15:30) 感染の知識を深め、正しい感染予防の実際を学ぶ。感染予防の基本的技術を習得する。個人防護具の着脱 (実技) 講師：平和台病院 副看護部長 感染管理認定看護師 柳原由美子氏 ナースセンター登録の支援 (希望者のみ)
2日目	フィジカルアセスメント (9:30～12:00) 患者の状態から緊急性の有無を明確に判断・把握し、必要とされる看護ケアへつなげることー看護観察から判断まで (実技含) 講師：こどもとおとなの訪問看護ろけっとステーション 所長 坂本郁代氏	医療安全管理 (13:00～15:00) 身近に起こりうる医療事故について知り、予防策について学ぶ。 講師：潤和会記念病院 医療安全管理室 山本直美氏 15:00～振り返り

## 5. 受講者の状況

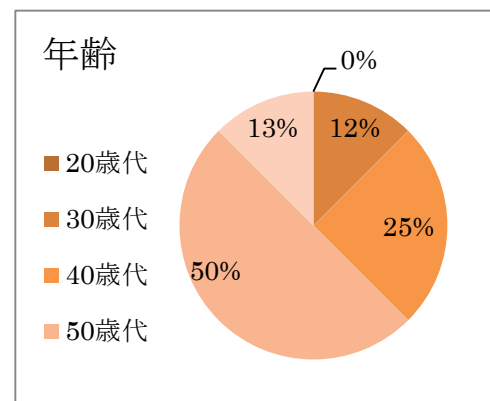
① 受講者：8名 (未就業者 8名)

② 取得看護免許

看護師 7名 准看護師 1名

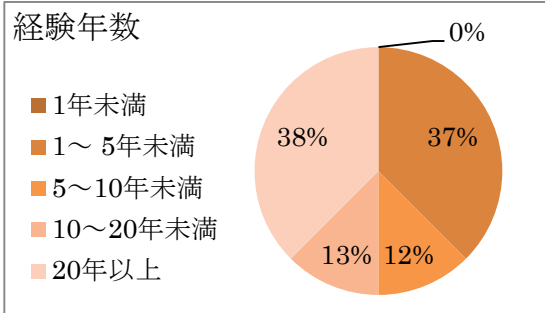
③ 年齢：34～73歳 (平均 51.9歳)

年代	受講生数
～29歳	0
30～39歳	1
40～49歳	2
50～59歳	4
60歳以上	1



④ 看護職経験年数：2.5年～35年（平均13.8年）

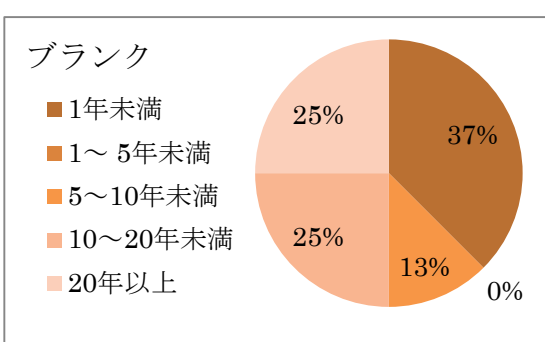
経験年数	受講生数
1年未満	0
1～5年未満	3
5～10年未満	1
10～20年未満	1
20年以上	3



⑤ 未就業者10名の最終離職(または免許取得)から受講までの期間(ブランク期間)

0年～26年（平均10.1年）

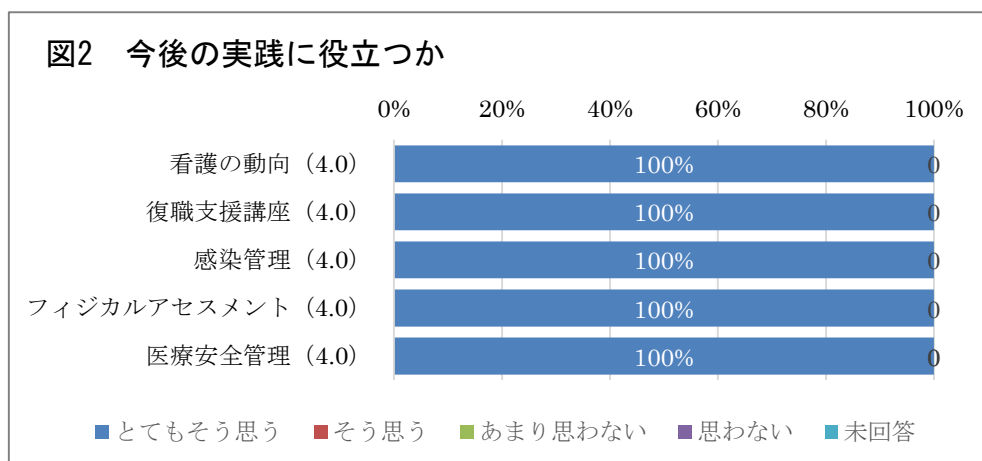
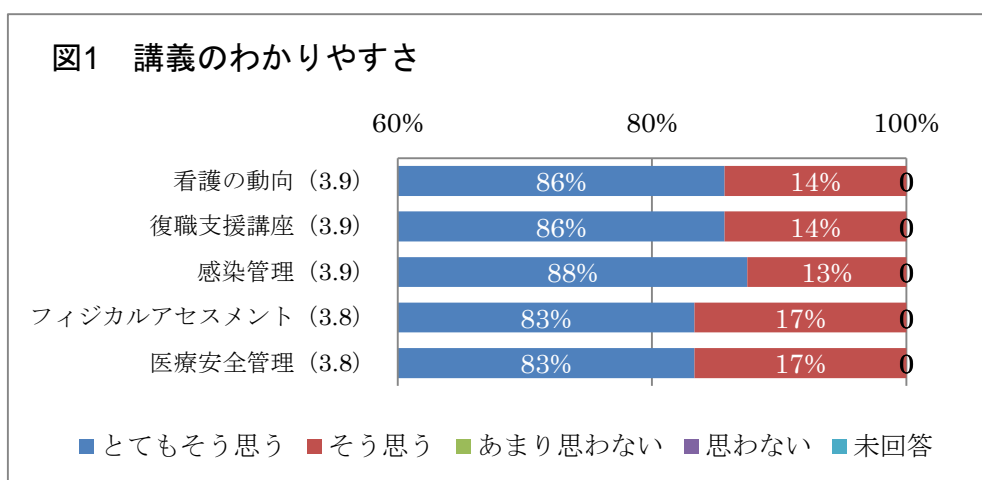
ブランク期間	受講生数
1年未満	3
1～5年未満	0
5～10年未満	1
10～20年未満	2
20年以上	2



## 6. 結果

各講義について、＜理解度（わかりやすさ）＞＜今後の実践に役立つか＞について4段階評価尺度と自由記述方式によるアンケート結果で示した。

### 1) 各講義のアンケート結果



## 2) 自己紹介・意見交換

### (1) 内容

#### ① 目標

受講生間の交流を深め、再就業への意欲をさらに高める

#### ② 内容

- ・ キャリアシートを活用し過去の振り返りと今後について考える
- ・ アイスブレイクと受講生自己紹介
- ・ 意見交換

### 3) 受講しての感想

- ・ 皆さんの考えや意見を聞いてためになることが多かった。職場環境に慣れるのが遅いなど同じ経験をしている方の、立ち直るやり方を聞いて、心強かった。これから職場探しするときは、しっかり調べて、いろんな人の意見を参考にさせていただこうと思う。
- ・ なかなか聞くことができない貴重な話を聞くことができ、とても良い経験になった。
- ・ 学生の時以来の講義で勉強になった。
- ・ 空気感染。接触感染。飛沫感染。感染が色々あることで、その一つ一つに気をつけられないといけないと思った。実際、防護服やエプロンをつけたりしたが、とてもためになった。
- ・ 自分の身を守るためにも、そして医療行為をする上でも大切なことを学べた。
- ・ フィジカルアセスメントでは、なんとなく観察していたことがしっかりわかった。
- ・ フィジカルアセスメントや、医療事故防止でも、自分の手や目や感覚を使って観察することの大切さがわかった。
- ・ 医療安全では、事故を起こす前に予防ができるよう事例を通して学ぶことができた。
- ・ 人はミスを起こしやすい。それを起こさないためには、ミスを起こさないよう、様々な要因も含めて考えていかなければならないと思った。

### 4) 取り入れてほしい講義

パソコンの使い方

医療機器の使い方

## 7. まとめ

広報は、情報誌、新聞、市町村広報誌、ハローワーク等で行い、研修の申込は10名であったが家族の体調不良等に伴い8名の参加となった。

研修内容については、アンケートの結果のとおり満足度の高いものとなった。演習をすることで感染管理や個人防護具の着脱についても理解が深まり、感染予防対策の重要性を再確認できたようだ。また聴診、体位をかえての呼吸状態の観察などの実体験を通し、観察の必要性や手段について考える機会になったようだ。参加者同士の交流では、就業の悩みを話したり、情報交換することで、再就職への意欲につながったようだ。

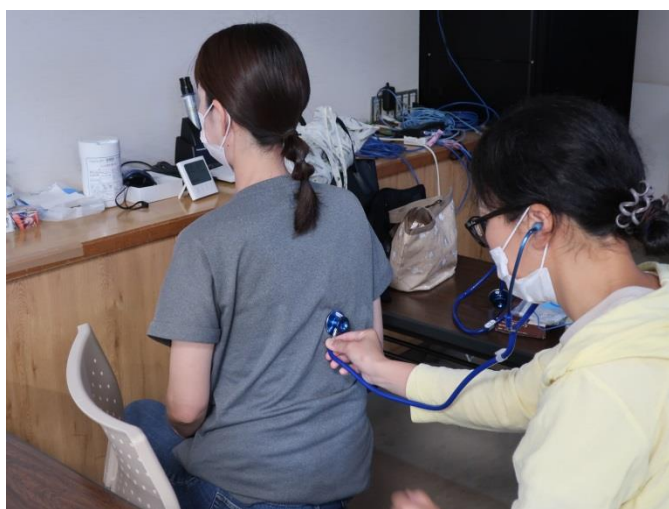
受講者は参加することを決心し研修に申し込み、会場に足を運ぶこと自体にも不安を感じている。その不安な気持ちに寄り添いながら受講者の状況に合わせ就業を支援していきたい。

## 研修の様子

### 感染管理 個人防護具の着脱



### フィジカルアセスメント 呼吸音の聴取、S P O<sub>2</sub>測定



医療安全

